

氏名(国籍)	張	瓊	方	(台湾)
学位の種類	博士(学術)			
学位記番号	博甲第4454号			
学位授与年月日	平成19年3月23日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当			
審査研究科	人間総合科学研究科			
学位論文題目	中国舞踊の継承と展開 －台湾における舞踊教育システムと舞踊表現－			
主査	筑波大学教授	博士(文学)	佐藤 臣彦	
副査	筑波大学助教授	博士(心理学)	坂入 洋右	
副査	筑波大学助教授	博士(体育科学)	酒井 利信	
副査	筑波大学助教授	Dr. Phil.	長田 年弘	

## 論文の内容の要旨

### (1) 研究目的

本研究の課題は、長い歴史をもち多様な展開がなされてきた中国舞踊を継承する地域の一つ、台湾における「中華民族舞踊」(以下、中国舞踊)について、その継承の経緯と展開の実際を明らかにすること、また、こうした舞踊文化を支えている台湾独自の舞踊教育システムについて総体的に明らかにすること、さらに、こうした舞踊教育システムの具体的成果といえる中国舞踊に見られる表現様態を、舞踊コンクールや舞踊団における上演映像記録に基づいて明らかにすることにより、台湾における舞踊表現が、中国舞踊の継承という面を保ちつつ、新たな舞踊表現を獲得するに至っていることを示そうとするところにある。

### (2) 研究方法

方法としては、文献やドキュメント資料の分析、映像資料の記号的分析、類型化による体系的分析などの手法を援用している。まず、中国古典作品や舞踊史の知見に拠りつつ中国舞踊の多様性を示した上で、台湾の舞踊専門教育におけるカリキュラムの基礎と内容、教材としての舞踊の種類(ジャンル)、題材(テーマ)、手具や道具、所作・テクニックの種類、授業実施の教学綱要などを一次資料に基づいて分析する手法をとっている。また、舞踊テクニックの分析方法については、「新体操」の採点要領を参考にしながら運動学的観点から類型化したうえで記号化する手順をとっている。映像資料(DVD)の分析にあたっては、こうした記号を援用して、台湾の舞踊教育システムの成果といえる全国学生舞踊コンクール入賞作品、台湾舞踊表現の現在を示している職業的舞踊団における舞踊作品を対象として、題材(テーマ)、作品構成、表現技法などの視点から検討する手法を用いている。

### (3) 論文構成と概要

本論文は、序論(①研究の目的と先行研究の検討、②本研究の課題と方法、③用語の規定)、本論全4章、および結論(今後の課題を含む)によって構成されている。

第一章：台湾における中国舞踊の継承とその展開に関する歴史的概観(①台湾舞踊前史、②台湾における

中国舞踊継承への序幕、③台湾における中国舞踊初期の様相とその変容)では、まず第1節において、古代から近代までの中国舞踊の様態と変遷について概観し、制度化された舞踊文化と民衆的な舞踊文化の二元性に中国舞踊文化の特徴があり、さらに周辺民族や周辺諸国における舞踊文化の影響が加わることで、より多面的になっていった過程を明らかにしている。続く第2節および第3節では、1949年以降の台湾における舞踊の展開が、政府主導による中国文化復興を主眼とする第一段階(移植初期)と、国民の文化水準を高める文化政策としての第二段階に分けうることを資料に基づいて明らかにし、後者において、国立大学における舞踊専攻学科の設置、小、中、高等学校における舞踊専攻コース設置といった台湾独自の舞踊教育システムの制度化が実現していく過程を明らかにしている。

第二章：台湾における舞踊教育システムとその中国舞踊の伝承(①台湾の学制と舞踊専門教育システムの形成、②舞踊教育課程と中国舞踊の関連)では、まず第1節において、伝承すべき文化としての中国舞踊と学校教育課程との関わりを踏まえ、小、中、高、大学それぞれの学校段階において設置された舞踊専攻コースがどのように位置づけられ、どのような現況にあるのかについて統計資料に基づきながら考察し、舞踊専攻コースを設けている学校は全台湾学校の1～4%であり、特に義務教育段階では「特殊才能教育」の一環として位置づけられていること、中等・高等教育段階では、独自の教育と研究を担っていく「専門教育」として位置づけられていることを明らかにしている。第2節では、各学校段階における入学選抜科目および舞踊教育課程における「中国舞踊」の位置づけについて、「入試要領」や「教育課程」といった一次資料に基づいて考察し、中国舞踊が必修科目となっていること、さらに教育成果を発表する場である舞踊コンクールにおける基幹部門となっていることから、全学校段階における中国舞踊の水準が上昇する契機となっていることを考察している。

第三章：舞踊教育課程と舞踊表現(①教育課程としての中国舞踊学習の基盤、②中国舞踊テクニックの体系とコンクール作品の技法的分析)では、第二章での考察が制度的な視点からの考察であったのに対し、舞踊教育課程の具体的内容とその成果である舞踊表現の実際について考察している。第1節では、舞踊専攻コースにおける中国舞踊の学習内容について、中国舞踊導入の初期には、京劇の所作を主軸に、武術、民間舞踊などの所作が「中国古典舞踊」の基本動作として取り込まれ、教育課程の内容として体系化されていった過程を明らかにしている。また、全国学生舞踊コンクールのDVD映像の分析によって「中国古典舞踊」が大きく「文舞(身段)」と「武舞(武功)」とに類型化できることを示し、過去五年間における中国古典舞踊部門における作品傾向の分析によって「武舞」が優勢にあるとの結果を導いている。第2節では、中国舞踊における基本動作(技法)とその名称について体系的に整理し、併せて作品分析の方法として独自に「記号化」したうえで、舞踊教育課程において学習された舞踊テクニックがどのように表現化されているかを検証するため、学生舞踊コンクールにおける中国古典舞踊ソロ部門受賞作品のDVD映像を分析し、その結果、中国古典舞踊作品では、題材(テーマ)、衣装、手具などが、中国古典作品に典拠を持つものであること、技法的には、教育課程における基本動作が万遍なく踏まえられて「表現」に活用されていることを明らかにしている。

第四章：台湾における中国舞踊の展開とその表現(①台湾における中国舞踊の芸術的展開とその表現、②中国舞踊の表現に基づいた台湾現代舞踊の開花)では、教育現場を離れ、一般の芸術シーンにおいて、中国舞踊がどのような「表現」を展開しているかを考察している。第1節では、職業的な「舞踊団」の設立とともに、伝統的な中国舞踊を基礎としつつ新しい要素を取り込んだ「新古典様式」ともいべき舞踊表現が生まれてくる過程を考察し、その大きな契機となったのは、敦煌芸術および民俗・民族舞踊であったとしている。台湾における現代の中国舞踊作品は、京劇に基づく舞踊技法を洗練させるとともに、敦煌美術からの触発によって形作られた「敦煌舞踊」、民間に伝承されてきた「民俗舞踊」、中国や台湾の少数民族における「民族舞踊」を特徴づけている表現技法を取り込むことで独自の新たな表現形式を獲得していったとしたうえで、このこ

とを VTR や DVD 映像として残された実際の作品分析を通して具体的に検証している。また、第 2 節では、欧米や中国大陸との交流再開を契機とする現代舞踊における技法や表現の多様化について、具体的な作品分析に基づきつつ明らかにするとともに、特に台湾舞踊芸術の精華といわれる舞踊作品『薪傳』の分析を通して、台湾における舞踊表現の到達点を明らかにしている。

以上が「中国舞踊の継承と展開－台湾における舞踊教育システムと舞踊表現－」をテーマとする本研究の概要であるが、台湾における舞踊表現は、中国舞踊の継承という面を持ちつつも、独自の舞踊教育システムの構築（学校教育課程と舞踊コンクール）によって新たな舞踊表現を獲得するに至っていると結論づけている。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、「台湾における中国舞踊の継承と展開」という課題に対し、台湾で独自に構築された「舞踊教育システム」の具体的検討と、そうした専門教育の成果と言える「学生舞踊コンクール」における入賞作品や職業的舞踊団における舞踊作品を、著者の考案になる舞踊技法記号によって分析することで、「中国舞踊」の舞踊表現への貢献の様相を明らかにしようとするものである。こうした研究は類例に乏しく、まず、その点でのオリジナリティが評価された。また、研究の手順も、一次資料を広く渉猟して具体的な分析がなされている点、さらに、作品分析の際に援用された舞踊技法の記号化についても、今後、類似する研究への方法論的貢献度が高いという点が評価された。また、本研究が舞踊教育システムと舞踊における芸術表現の双方を対象としている点について、「包括性」という点での評価を得た反面、「教育」と「芸術」とでは研究対象としての質的相違があることに留意すべきであるとの意見も出されたが、この指摘については、今後の研究を展開する上での課題とされた。全体としては、舞踊研究の在り方に新しい可能性と手法をもたらしており、内容についても全体的な構成に連関性が認められ、研究課題によく応えているとして、学位論文として十分水準に達していると評価された。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。